



きじむんのとう～ちゅいむに～ 十二支編

第8回：子^ね

キーワード 十二支・唐（とう）の国・ネコとネズミ・ケナガネズミ・（ねずみ）

ハイタイ&ハイサイ！！ グスーヨー、チャーガンジューヤミセービ！？ 皆さんは、十二支が子から始まるようになったのを知っていますか？ 今月は、そのわけを伝える民話などを紹介します。

十二支では、最初に子から数えます。方角では真北角、時刻では午後11時～深夜1時の間を表します。「子」の字は「たね」「ふえる」「うむ」という意味があります。

●十二支が子から始まるわけ

むかしむかし…唐の国の神様が、12の月に12の神様を作ろうと、ネズミを呼んでこう言いました。「元旦に、私のところへ新年の挨拶に来たものから順に月々の神にする。他の動物たちにそう伝えなさい」



ネズミは、ネコに1日遅れの日を伝え、牛には「足が遅いから、元旦より2、3日前から歩きなさい」と言いました。そして、こっそり牛の背中の中に入って神様の元へむかいました。元旦を迎え、神様のお屋敷の門が開いたので、ネズミは牛の背中から飛び降り、一番になりました。だから、十二支の中で、子が最初に来るのですね。

ところで、ネズミにだまされ、神様の元へ1日遅れでやって来たネコは、12の神様の仲間に入れてもらえず、どうにも怒りが収まりません。それで、ネズミを追いかけ回すようになりましたとさ。



【担当者撮影】

●唐の国ってどこ？

この民話で一番えらい神様が「唐の国」とは、実際の唐王朝（7～10世紀頃）を指すのではなく、極楽とほぼ同じ意味で使われています。琉球の民話・説話の中では、しばしばみられる表現です。

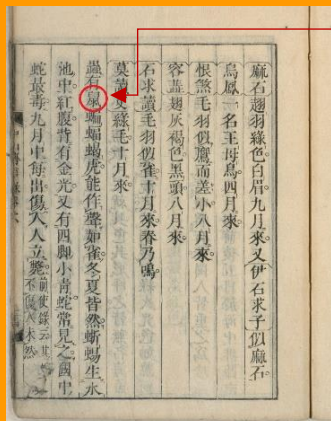


※画像①②提供
琉球大学博物館（風樹館）

●ケナガネズミの話
南西諸島のみに分布し、体長二十～三十cm、しっぽは二五～三五cmもある、日本の野ネズミの中で一番大きなネズミです。夜行性で木登りが得意！国の天然記念物ですが、生息地の開発ほかによって生息数が減少。残念なことに、現在では絶滅危惧種に指定されてしまいました。

●鼠（ねずみ）の字のいろいろ

琉球大学附属図書館デジタルアーカイブ伊波普猷文庫No.018 (6)『中山伝信録』巻6(P35 徐葆光 1721年成立)では、こんな字が確認できます。下のQRコードをご覧くださいね！ではまた～(NK)



博物館（風樹館）のケナガネズミをみにきてね～！



■参考文献

おきなわの民話百選刊行委員会編『おきなわの民話百選』PP28-29（沖縄県生活福祉部児童家庭課 1996）/ 沖縄広報センター編『沖縄の民話』（財団法人りゅうぎん国際化振興財団 1995）/ 琉球大学資料館（風樹館）『哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類標本目録』P60（琉球大学資料館（風樹館）2011）/ 徐葆光『中山伝信録』巻6（琉球大学附属図書館デジタルアーカイブ・伊波普猷文庫）

